

<b>1 学校教育目標</b>	<b>2 本年度の重点目標</b>
心豊かに！	①豊かな心の育成 ②学力向上 ③特別支援教育の充実 ④信頼される学校づくり

達成度 A：ほぼ達成できた  
B：概ね達成できた  
C：やや不十分である  
D：不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価							学校関係者評価委員会から		
①豊かな心の育成							学校関係者 評価委員 の評価 (A～Dで記 入)	意見や提言など	
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)			
教育活動	●心の教育	・人権・同和教育が充実できたか	・「人権教室」を毎月設定し、命やなかまづくりについて考え、意識を高め、アンケートで、思いやりの項目の肯定的評価が昨年度を上回る。	・人権教室、人権集会所を学級・学年・全校で実施する。	B	・学年朝会の形態で人権教室を実施した。学年4人の担当が工夫を凝らした実践に努め学年で共通認識をもつことが出来た。 ・児童の人権を大切にすることは育っているように思われるが、不適切な言葉づかいからのトラブルが見られるなど、生活の中で実践力を高める必要がある。	・学校生活の中で不適切な言葉づかいを見逃さないと同時に、その場で適切に指導するように努める。 ・各月の人権教室で、言葉づかいの現状を振り返る。	B	・普段道で会うとよく挨拶をしてくれず。 ・挨拶・言葉遣いで、いつも大人の評価が厳しいものです。子どもの自己評価を素直に受け入れて評価してあげたいものです。 ・チクタクとばを遣うことが少なくなったと思います。
		・居心地のよい学級づくりができたか	・QUテストを年2回実施し、学級生活満足群の児童の数がどの学級も70%を超す。	・外部から専門家を招き、学級づくりの研修会を実施する。 ・経営方針に目標数値を入れた学級経営案を作成し、学級づくりを計画的に進める。	B	・校内研究の一環として取り組んでいる朝の「ふれあいタイム」を各学期に1回ずつ、1時間まで使って取り組んだ。そのことで、シェアリングの時間まで十分に、より充実した活動が行えた。 ・「ふれあいタイム」の年間の内容を1冊にまとめたことで、その内容を各クラスで適宜行って居心地の良いクラス作りができた。	・職員の評価があまり変わらなかったため、学級づくりの具体的な取組について、職員研修で紹介しあう場などを設けたい。	A	・親子ともに高評価です。先生方の努力の表れだと思います。個別での対応が必要な子やご家庭への支援もよろしく願いたいです。 ・学校内の環境、友達との様子などから安心感が伝わります。
教育活動	●いじめ問題への対応	・いじめのない学級・学校づくりができたか	・いじめをしない・許さない学校づくりの意識を高める。	・生活アンケートを毎月10日をめどに実施し、いじめ早期発見と防止の徹底を図る。	B	・毎月のアンケートで各担任が児童の実態を把握し、そのときに認識した事案については解決に導いている。 ・担任で解決できない事案については学年集団、管理職を交えてじっくりと実態を調査し、解決に導いていく。	・保護者や児童の評価はあまり高くないことは学校の取り組みを知らせていないことが大きな要因とも考えられる。学級および学年通信などで児童の様子や学校の取り組みを知らせるなど、周知してもらったことが学校理解へとつながるといえる。 ・保護者とつながることを大切に、保護者より先に学校からこまめな連絡を取るよう心がけていきたい。	A	
②学力向上							学校関係者 評価委員 の評価 (A～Dで記 入)	意見や提言など	
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)			
教育活動	●学力の向上	・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業の工夫改善ができたか	・授業についてのアンケートで、80%以上の児童が「よくなる」と評価する。 ・国語科、算数科の学習到達度(CRT)で佐賀県平均を上回る。	・課題とまとめを意識した45分授業の徹底を図る。 ・算数科で児童の実態に応じた少人数指導や習熟度別指導に取り組む。	B	・校内研究の教科である算数科の研究授業では、各学年集団で教材や指導案作りにより組み、ユニバーサルデザインの視点の意識しながら三日月授業モデルに沿った授業づくりができた。 ・指導法改善の加配があるのは、3～6年生であるが、3・4年担当は1名なので、TT授業の形態のみであった。5・6年については、学習内容によって、習熟度別の少人数授業に取り組むことができたが、進捗状況によっては、習熟度別のコース学習の時間が確保できなかった。	・児童の実態を把握した上で、年度当初に、担当者が少人数授業(習熟度別を含む)を効果的に取り入れることができるように計画を立てる。	A	・ユニバーサルデザインの視点を取り入れたわかりやすい授業づくりの成果が出始めていると思います。今後とも研鑽に努めてほしいと思います。 ・保護者や児童の受け止め方の評価が上がっている。教職員は、もう一歩わかりやすい授業をという意志が伝わる。
		・家庭学習の習慣が定着できたか	・家庭学習の習慣が身に付いている児童を80%以上にする。	・研修部が中心となり、基本的学習習慣の重点を決め、全校で繰り返し実施していく。 ・家庭学習パンフレットを保護者へ周知する。	B	・今年度より家庭での学習習慣の涵養と保護者の意識向上を目的として「三日月つ子家庭学習」を各学期末に設定した。期間中は保護者の意識も高く、協力的な意見が多かった。 ・今年度11月より家庭学習の充実を目的として「自主学習」に全学年で取り組んでいる。適宜指導を入れながら、毎週確実に取り組んでいる。同時に「価値学習パンフレット」を最長子に配付し、家庭学習の大切さについて保護者に啓発している。 ・家庭学習の習慣が身に付いている児童の割合はほぼ100%であるが、特定の児童については引き続き家庭学習についての指導が必要である。	・次年度も引き続き「三日月つ子家庭学習」に取り組む。 ・家庭での学習習慣を確かなものとするために、お便り等で家庭学習の大切さ等について啓発するとともに、保護者の意見等も取り入れていく。	A	・学力の向上には、家庭との連携が不可欠だと思えます。最近では、ゲームやテレビなどに流れてしまう傾向があります。家読(うちどく)を呼びかけることが必要です。 ・大人の要求水準と子どもの意識には常にずれがあるものです。基本は子育ての課題だと思えます。 ・学年の始まりから本を持ち帰る子どもが多いと感じました。(低学年)
		・教育の質の向上に向けたICT活用教育の実施	・ICT活用を推進することで教育の質が向上したか	・電子黒板・学習用タブレットを活用した授業を行うことで80%以上の児童が「分かりやすい」と評価する。	・電子黒板やタブレットを日常的かつ発展的に活用する。 ・校内研究会を学期に1回以上開催する。	B	・電子黒板は、ほぼどの職員も毎時間活用できる。タブレットについては、出席等公務においても日常的に使用する意識が高まった。夏季に技能を高める研修会を開催した。しかし、活用状況は高くない。	・研修だけでなく、定期的にタブレットのすぐ使える授業実践例を紹介していく。 ・自作の教材を個々にせず、校内LANを活用して全職員が活用できるシステムを整える。	A
学校運営	○教職員の資質向上	・ユニバーサルデザインに視点を置いた授業づくりができたか	・授業評価アンケートでユニバーサルデザイン校内授業研究会や研修会が充実していることと授業力は向上したか	・研究発表に向けて全担任が研究授業を年間1回以上実施する。	B	・UDの視点を取り入れた学習環境づくりや市教育研究大会発表会に向けて、グループ研等全員が指導案を作成し、研究授業に取り組めた。 ・授業の中で、児童の思考を深めるためのつなぎの工夫・改善に取り組んでいきたい。	・UDの視点を盛り入れた授業づくりについては、継続的な取組が重要であり、本校の特色として今後も校内研究の根拠に据えて取り組んでいきたい。	A	・研究の成果が出てきていると思うのですが、先生方の評価は、さらにステップアップを望んで工夫されているのでしょうか。
③特別支援教育の充実							学校関係者 評価委員 の評価 (A～Dで記 入)	意見や提言など	
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)			
教育活動	○特別支援教育	・個別に支援が必要な児童への支援体制を確立できたか	・一人一人の児童理解に努め、積極的に指導・支援に取り組み、個別の指導計画の作成率を100%にする。 ・全職員あげての支援体制ができていくと考える教師が80%以上にする。	・特別支援教育に関する研修会を年間5回以上実施し、どのような特性を持った児童にも対応できる教職員の知識とスキルを高めていく。 ・学校便りなどを活用して、保護者への啓発に努める。	B	・新入学児童には入級体験や支援学級見学の際の特別支援学級についての保護者説明を通して、本校の特別支援教育についての情報を提供することができた。 ・具体的な支援方法を検討するための校内委員会が十分に機能していない。	・校内委員会の在り方を再検討し、職員に共通理解を図ることが急務である。 ・学級担任の役割、特別支援教育コーディネーターの役割を再確認し、支援体制の流れを再構築する必要がある。	A	・時間を設定しての相談やチャンスをつ捉えた相談などで児童理解をされている様子がわかります。 ・幼稚園・小学校と年を重ねるごとに成長されている状態がわかります。
教育活動	○生徒指導	・教育相談を充実させているか	・教育相談研修会を開催し、児童理解に努め、不登校や問題行動ゼロをめざす。	・気になる児童について全職員で情報を共有し指導・支援をしている。 ・スクールカウンセラーや各種専門機関と連携して、教育相談活動を充実させていく。	B	・1学期に各学級の気になる子について共通理解を図るための研修会を、夏季休業中にスクールカウンセラーによる研修会を実施することができた。 ・11月には不登校及び不登校傾向の児童に関する共通理解を図った。 ・6月には担任による教育相談週間を実施することができた。また、スクールカウンセラーによるカウンセリングも児童や保護者を対象に実施している。	・担当者だけでなく、部としての立案等ができるようにすることで、教職員の要望を広く取り入れることができるようにする。 ・不登校等問題行動に対して、必要に応じて関係機関との連携を強化していく。	A	・一人ひとりに寄り添った支援がなされていると感じました。家庭との情報の共有は難しい問題ですね。 ・子どもの学校評価が高いのが何よりです。 ・いろいろな問題に早急に対応されていることで信頼が保たれていると思います。
④信頼される学校づくり							学校関係者 評価委員 の評価 (A～Dで記 入)	意見や提言など	
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)			
学校運営	○学校経営方針	・学校教育目標の具体化と重点目標の明確化ができたか	・教育目標及び経営方針、重点取組について教職員へ周知徹底し、認知度を100%にする。 ・児童や保護者に周知し、認知度を80%以上にする。	・保護者や地域へは、学校便りやHP、育友会総会、地域懇談会等の場で説明を行い、周知を図る。 ・児童には全校朝会や学年集会所等を利用して分かりやすく話をしていく。	B	・学校教育目標の保護者の認知度が8割を超えた。児童の認知度も高くなった。育友会総会や地域の会合等、学校から配布する各種便り等を通して、継続して伝えてきた成果が出てきたと考える。 ・保護者や児童へ伝わりやすいように、昨年度から簡潔な現状目標を示したこともよかった。 ・経営方針や重点取組について、職員の共通理解はできているので、組織的な取り組みを徹底したい。	・来年度も現在の教育目標の達成を目指し、様々な場を活用しながら学校の教育目標や方針、重点取組を伝えていきたい。 ・教育目標達成に向けた進捗状況や学校の現状、児童の実態等の情報を継続して伝えていくことで、さらに保護者や地域の理解を進めたい。	A	・簡潔でわかりやすく、目指すものが明確でわかりやすい。 ・シンプルイズベストだと思います。 ・目標をいろいろな機会で見せられており、理解しやすいと感じています。 ・ワンボイス メッセージが功を奏し、保護者、児童、教職員ともに評価が上がっている。
学校運営	○開かれた学校づくり	・学校情報の公開ができたか	・月に1回以上発行予定の学校便りや学年便りをはじめ、各種便りを通して学校情報を発信する。 ・学校HPを随時更新し、情報提供を行う。	・保護者や地域を対象に、教育活動や児童の様子など、学校情報を積極的に発信する。 ・気軽に来校でき、相談しやすい雰囲気学校づくりを努める。	B	・昨年以上に、ホームページの更新を行事ごとに行うことができるようになった。各学年の代表を決め、複数の人間が操作可能な環境にし、各学年の情報も情報提供ができるようにする。	・ICT活用担当者だけの更新だと学校行事の情報のみとなりやすいため、各学年の代表を決め、複数の人間が操作可能な環境にし、各学年の情報も情報提供ができるようにする。	A	・毎月の学校便り、家庭へ呼びかけなど細やかに行われていると思います。 ・保護者の評価が上がっています。
学校運営	○危機管理	・交通安全防止に向けての交通安全教育ができたか	・交通安全ルールを守り安全に生活しようとする児童の割合を80%以上にする。	・校内巡回パトロールを職員で実施する。 ・育友会と連携し、ヘルメット着用率100%に取り組む。	A	・交通安全ルールを守り、安全に生活することができた児童が90%を超え、意識の向上が見られた。巡回パトロールの実施が効果的であった。 ・歩道の歩き方やヘルメットの着用については、数人守れていない現状がある。	・登下校時の歩道や路側帯の歩き方について、引き続き安全指導が必要である。また、ヘルメットの着用についても引き続き、定期的な声をかけて指導を続けていく必要がある。	A	・家庭への啓発や校内での安全指導への取り組みの様子がわかります。登校が遅い子を時折見かけました。 ・日頃からの取り組みの積み重ねが大事ですので、今後ともがんばってほしい。
本年度の重点目標に含まれない共通評価項目							学校関係者 評価委員 の評価 (A～Dで記 入)	意見や提言など	
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)			
教育活動	●健康・体づくり	・望ましい生活習慣の形成を推進できたか	・規則正しい生活習慣を身に付けて、朝食摂取率が95%を上回る。	・立腹教育、ノーテレビノーゲームデーを推進すると共に、けんろカード、給食日常点検表を活用して指導し、健康的な生活習慣の意識を高める。	B	・「早寝早起き朝ご飯」の生活リズムがとれている児童が多く、毎日必ず朝食を摂る児童の割合も高かった。 ・毎月のノーテレビノーゲームデーの達成率は年間平均で約70%と過去最高の達成率となった。今後も定着させるために、継続して実施する必要がある。	・給食日常点検表を活用した清潔指導や保健タイム、元気カード等を活用した保健指導で身の回りの清潔や健康について意識を高める。	A	・朝食抜きの子もいる現状ではないかと思いますが、アレルギーへの対応への課題もありません。 ・アレルギー対応は大変なことですね。 ・給食室のスタッフの皆さま、毎日のご苦労に感謝です。 ・登校の状況等より生活のリズムがとれていると思う。
4 本年度のまとめ・次年度の取組									
<p>ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくり・環境づくりに取り組み、分かりやすい授業の実施と落ち着いた暮らせる場づくりのために、全職員で取り組んでいる。学習状況調査や保護者向けや児童向けの学校評価アンケートでもその成果が表れている。学校生活においては、日常的なトラブルの基になっている。正しい言葉遣いや思いやりのある行動ができるような指導を継続して行っていく必要がある。そのためにも、「学級づくり」「仲間づくり」について研修を深め、一人一人の教師のスキルを高めていく必要がある。また、家庭学習の習慣が身に付いていない児童の割合が高く、家庭での学習習慣の定着率を向上させることも課題である。</p> <p>健康・体づくりに関しては、ノーテレビノーゲームデーの取り組みを継続することで、視力の向上につなげることができた。今後も継続すると同時に、自他の安全な生活のためにルールやマナーの定着を重点項目に位置づけ指導を強化する必要がある。</p>									

●は共通評価項目、○は独自評価項目

保護者様

## 平成28年度 よりよい学校づくりについての保護者アンケートの結果（12月調査分）

小城市立三日月小学校  
校長 平田 繁 正

アンケートへのご協力ありがとうございました。集計の結果は、下記の通りでした。平成27年度と比較して、向上していると考えられる項目は、（１）「学校教育目標の周知」・（１３）「規則正しい生活」・（１４）「家庭学習の習慣」・（１５）「読書」で、５％以上アップしていました。一方、悪くなったのは、（５）「子どもの安全確保」で１％ダウンしていました。また、低い値でとどまっているのが、（１１）「あいさつ」・（１２）「正しい言葉遣い」・（１４）「家庭学習の習慣」・（１５）「読書」でした。課題となる項目については今年度も力を入れて取り組んだ結果が成果として見えつつあります。平成29年度は、よい面を伸ばしながら、特に「あいさつ」・「正しい言葉遣い」・「家庭学習の習慣」・「読書」に取り組み、よりよい学校づくりにつとめて参りたいと思います。ご家庭でも、お子様への声かけ・励ましなどのご支援・ご協力をよろしくお願ひいたします。

No	質問項目	4	3	2	1	4・3の割合(H28)	左から4321の順です。4 = よく当てはまる、3 = 大体当てはまる、2 = あまり当てはまらない、1 = 当てはまらない	【比較】4・3の割合(H27)
1	学校が、「心豊かに」を学校教育目標にすえていることを知っていますか。	229	349	87	42	82%		72%
2	学校は、学校だより・学級だより・連絡ノート・ホームページ等で、子どもや学習・生活の様子について、よく知らせていると思いますか。	360	317	28	2	96%		92%
3	学校は、分かりやすい授業のために工夫していると思いますか。	194	462	49	2	93%		91%
4	学校は、ICT機器〔電子黒板、デジタル教科書、パソコン等〕を活用して効果的な学習活動を行っていると思いますか。	218	432	57	0	92%		
5	学校は、子どもの安全確保に取り組んでいると思いますか。(大雨・雷・交通事故など生活のメール配信、避難訓練の実施など)	434	254	13	6	97%		98%
6	学校は、子どもについての相談に適切に応じていると思いますか。	187	430	86	4	87%		86%
7	学校は給食等の食育や健康に関する保健指導ができていると思いますか。	223	430	49	5	92%		92%
8	学校は、いじめをなくす取り組みを進めていると思いますか。	148	452	99	8	85%		84%
9	学校は、お子様の理解に努め、支援や指導を行っていると思いますか。	193	433	74	7	89%		88%
10	お子様は、楽しく学校に通っていますか。	395	283	25	4	96%		95%
11	お子様は気持ちのよいあいさつができていると思いますか。	148	389	160	9	76%		72%
12	お子様は正しい言葉づかいができていますか。(大人・先生・友達などに対して)	101	395	187	23	70%		66%
13	お子様は規則正しい生活ができていますか。(「早寝、早起き、朝ごはん」など)	207	369	109	22	81%		76%
14	お子様は、家庭学習の習慣が身につけていると思いますか。	153	371	150	33	74%		69%
15	お子様は、進んで本を読んでいますか。(読むようになってきましたか。)	179	238	227	62	59%		53%